

## 新規作物導入に伴うリスクマネジメント

### —青パパイヤの導入を事例に—

楊 弘昱(資源環境経済学・農業経営経済学分野)

#### 【目的】

日本の水稲作経営は、米の販売価格の長期的な低下や需要量の減少だけでなく、米の直接支払交付金や減反政策の廃止等の環境変化により、厳しい状況に置かれている。このような環境変化への対応として、園芸作物等を導入した経営の複合化は効果があるということが指摘されている。その一方で、近年は消費者の健康志向の高まりを受けて、健康食品に対するニーズが高まりつつあるという状況のなかで、機能性成分のある農産物が注目されている。

本研究では、健康食品として活用可能な農産物として青パパイヤを対象に、新規作物として青パパイヤを導入した農業経営体に対する調査を通じて、青パパイヤの導入に伴い発生するリスクへの対応を考察することを目的とする。

#### 【方法】

新規作物として青パパイヤを導入した3農業経営体（宮城県、千葉県、広島県）へのヒアリング調査を行った。同調査を通じて、青パパイヤの導入における意思決定モデルを検討するとともに、主に生産、販売面で発生するリスクとそのリスクへの対処について分析を行う。

#### 【分析結果】

分析結果より、青パパイヤの導入を規定する動機は、耕作放棄地の解消や青パパイヤの生産を通じた地域振興という点でいずれの農業経営体も一致していた。そのほか、国民の健康志向の向上に合わせた健康食品を提供しようという理由も一致した。ただし、生産・販売面でのリスクマネジメントにおいては、各農業経営体の性質により大きく異なることが明らかになった。特に、青パパイヤの収益に依存しない土地利用型農業を基盤とした農業経営体に比べて、青パパイヤのみを作付している農業経営体は加工・販売に対する意識が高く、積極的に新商品の開発や SNS 等のマスコミを通じた製品の周知に努めていることが明らかになった。

#### 【結論】

青パパイヤの導入に伴うリスクマネジメントとして、販売面では青パパイヤのみを作付している農業経営体は、果実のみの販売では利益が少ないことから、より高い付加価値を求めて加工品の開発・販売に注力していることが明らかになった。一方で、土地利用型農業を基盤として青パパイヤを新規導入した農業経営体は、自ら生産を拡大するというよりは、青パパイヤの市場拡大を目指して、青パパイヤの苗や生産ノウハウを提供することにより、他地域で同様に青パパイヤを導入する農業経営体を増やすことで、販売面にあるリスクの低下を目指している。本研究では事例分析で青パパイヤの導入に至る農業経営体の行動を分析したが、今後は青パパイヤの消費者ニーズについても分析することが求められる。